

平成 28 年度第 1 回 ISO/TC46/SC8 国内委員会議事録

1. 日時：平成 28 年 7 月 22 (金) 18:30 ~ 19:40

2. 場所：情報科学技術協会会議室

3. 出席者：委員

| | |
|-----------|---------------------------|
| 水嶋 永治 | 国立大学法人筑波大学(SC8 リーダー) |
| 永田 治樹 | 国立大学法人筑波大学名誉教授 (Skype 参加) |
| 鈴木 加奈子 | 学校法人立教大学 |
| 中井 恵久 | 国立国会図書館 |
| 小泉 史子 | 公益社団法人日本図書館協会 |
| 菅野 朋子 | 国立大学法人東京大学 |
| 戸田 あきら | 学校法人文教大学学園 |
| 濱田 浄人 | 独立行政法人国立科学博物館 |
| 事務局 光富 健一 | 一般社団法人情報科学技術協会 |
| ワザバ 徳原 直子 | 国立国会図書館 |

4. 配布資料：『平成 28 年度第 1 回 ISO/TC46/SC8 委員会議事次第』

(資料 1)「平成 28 年度実施計画」

(資料 2-1)「デジタルアーカイブの利活用に関する国際標準化」

(資料 2-2)「デジタルアーカイブにおいて原資料を管理するための識別子」

(資料 3)「ISO/TC46/SC8 ウェリントン総会報告」

(資料 4-1)「投票済み案件」

(資料 4-1)「投票審議案件」

5. 議事：

水嶋リーダーにより議事を進行し、各資料に基づき説明があった。

5-1)議題 1「平成 28 年度実施計画」(資料 1)、議題 2「計画進捗状況報告」(「デジタルアーカイブの利活用に関する国際標準化」(資料 2-1)、「デジタルアーカイブにおいて原資料を管理するための識別子」(資料 2-2))

資料に基づき、事務局からの説明及び永田委員からの補足があった。

- ・WG1 により“ Description and presentation of rights information in digital collections ”が NP 提案された (2016/7/3) (資料 2-1)。
- ・国際図書館資料識別子 (ISO 20427) について、CD 投票が実施され、成立した (資料 2-2)。「ISCI 部分のピリオドと識別子のピリオドの区別」について、コメントが寄せられたが、例外的なものであり、技術的に対応可能であるとのこと。

- ・ SC8 においては、これまで積み上げられた国際規格並びに技術レポートを参考に、その課題や解決手段を検討し、結果を共有することで、WG1 での NP 開発活動の補助とすることが課題であり、何らかの取り組みが必要。
- ・ 3 年間のうち 2 年目の実施計画であるが、あまり進行していない。
- ・ 来年には、次の年の提案を考えることも必要。

5-2) 議題 3 「ISO/TC46/SC8 ウェリントン総会報告」(資料 3)

- ・ TC46/SC8 の WG はほとんど行われず、次回(ベルリン)で行なう予定(10月)。
- ・ WG11 Museum statistics : ISO18461 : "International museum statistics"は完成、新たにパフォーマンス指標(ISO/NP21246)が出ている。
- ・ WG12 Archives statistics : ベルリンで ISO19580 の 1 案を出したい、とのこと。
- ・ WG7 National Libraries : 新 WG を立ち上げている。
- ・ ISO/NP 21248 : "Quality assessment for national libraries"について、国立国会図書館から「国会図書館の使命と目標について」コメントを提出した。
- ・ 図書館統計(ISO2789)、図書館パフォーマンス指標(ISO11620)が、改訂。

5-3) 議題 4 「ISO/TC46/SC8 国内審議」

- ・ 投票済み案件(資料 4-1)について報告があり、有田委員、中井委員が各々エキスパートとして登録された。
- ・ 資料 4-2 について、締切までに回答を検討、投票することを確認した。

5-4) その他

- ・ JIS-X0814 について、7/26 までに確認する。その後、規格調整会議にかかる。年内刊行は難しい状況。
- ・ 10 月ベルリン会議の参加者について、調整する。
- ・ JIS-X0812 (ISO11620) の更新が出ているが、JIS の更新は 1 回見送ってはどうか。日本規格協会に打診している。
- ・ Impact 評価の JIS 化について検討が必要。1 版については Impact 評価の手法が書かれているが、内容的には物足りない感がある。
- ・ JIS 化の承認が難しいことがある。Impact 評価について、翻訳だけする、という方法もある。「図書館パフォーマンス指標」のように、先に翻訳・内容紹介をしてから、JIS 化となった例もある。選択肢を広げるひとつとして検討してはどうか。
- ・ 翻訳されると役に立つと思う。
- ・ 内容的な物足りなさについては、国内独自で追加することも可能である。
- ・ 「実施計画」で成果を期待されているところもあるので、一度、WG1、WG2、事務局で一度確認をし、今後 SC8 の取り組むことについて、あらためて提案、相談したい。
- ・ JIS 化については、日本規格協会が年 3 回実施する公募に応募し採択される。Impact 評

価についても相談（提案）することは可能。

- ・ 内閣府の知財事務局の動きについて情報提供。「デジタルアーカイブの連携に関する実務者協議会 中間報告」が出された。また、今年度は、「メタデータのオープン化等に関するガイドライン」を策定予定で、来週末（29日）の実務者協議会では、協議会の下にWGが設置される予定。
- ・ 日本図書館協会で、今後のJLAの図書館調査について検討する「図書館調査の在り方検討会」が立ち上がった。当委員会からも委員が参加している。
- ・ 来年2月に、情報科学技術協会が建物建替えのため移転する。移転先は日本図書館協会会館（中央区新川）。

以上